

様式第3号

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成24年度 第2回 川西市文化財審議委員会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 社会教育室 (内線 3421)	
開 催 日 時		平成25年3月26日(金)13時30分～14時50分	
開 催 場 所		川西市役所 B01会議室	
出 席 者	委 員	多淵委員長、福本副委員長、福永委員 計3名	
	そ の 他		
	事 務 局	岡野社会教育室長、井上社会教育室副主幹、山田主事 計3名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		なし	
会 議 次 第		・報告 (1)川西市文化遺産継承・活性化事業の実施について (2)その他	
会 議 結 果		別紙のとおり	

審 議 経 過

NO.1

事務局	委員2名がご都合により欠席している。よろしくご審議をお願いしたい。
委員長	それでは、事務局より報告事項「川西市文化遺産継承・活性化事業」について報告していただきたい。
事務局	<p>前は各地区の太鼓台・だんじりの修理を行っているという中間報告を行ったが、年度末になり事業が終了したので報告を行いたい。</p> <p>(事務局よりスライドを使用し、市内4地区5団体の太鼓台・だんじり・雅楽の修理状況や祭礼時の巡行・演奏活動等の報告を行った。)</p>
A委員	補助事業であるので、修理に伴う業者選定については適正に行っていたらいい。
委員長	次年度もあるので、入札や・見積り合わせのシステムを整備していただきたい。
A委員	太鼓台は昔は担いでいたが、現在今回の報告のように曳く形に変化している。地区によっては担いでいるところもあるが、地区外から手伝いを呼んでいる状況である。西播磨地域に比べると、衰退している。
事務局	今回報告した地区は、曳行してでも祭礼時の巡行は守っているが、他の地区では人員不足等で祭礼時に出せず、小屋に格納した状態のところも多い。
A委員	多田院地区では、昔は太鼓台があったが、人員不足で巡行しなくなり、子ども用のだんじりを新調した。東畦野地区も同じようなものと思われるが、子どもの参加は多いようである。
委員長	女子が太鼓を叩いている写真があった。現代では平等であるので女子が叩いてもおかしくはないが、昔は女性が乗れないような風習があった。
事務局	<p>地区によっては男子に限定している場合もあるが、最近ではスポーツクラブの参加などで男子が集まらず、新田地区などのように以前から男女区別なく募集している場合がある。</p> <p>担ぎ手もいないので台車付けて地区の人々で曳いたり、また今まで出せてなかったものが今回の補助金で修理を行い表に出るよ</p>

審 議 経 過

NO.2

	<p>うになるなど、10年、20年と継承していただければよいと思っている。</p> <p>次年度も応募地区があったが、次回で報告したい。</p>
A委員	川西では布団太鼓が多いのか。
委員長	播磨のものと布団の形が違うようである。
事務局	<p>火打と西畦野地区は、それぞれ形は違うが布団太鼓である。下加茂地区は切妻形の屋根で、川西では平野・東多田・矢問などは同じく切妻形である。</p> <p>C委員によると、幕末から明治にかけて大阪湾の地域で、だんじり・太鼓台が盛んになったようである。川西の場合は、明治時代に各村々で盛んに行なわれるようになったようである。</p> <p>だんじりに伴う俄は、大阪周辺では昔は盛んに行なわれていたようであるが、今は少なく新田の俄は珍しいとのことである。</p>
委員長	播磨地域では、俄は行っていない。
A委員	新田地区は新旧住民が一体となって、俄を行っている。
事務局	山下・下財地区でも現在は行っていないが、昔は俄を行っていたらしい。
委員長	憶えている人がいるうちに、早く調査を行った方が良いのではないか。
事務局	川西市ではこれまで民俗調査を行ってこなかったが、今回の調査がきっかけとなり取り組みたい。
委員長	<p>文化財の建築の分野でも、これまで本殿を中心に行なってきたが、これからは拝殿も民俗調査と合同で行うべきではないか。</p> <p>次年度もこの事業は続くのか。</p>
事務局	文化庁から照会があり、2月末に仮申請を行った。矢問・小戸2地区の太鼓台と親子舞踊教室の3団体から希望があった。
A委員	川西内には歴史のあるゴルフ場があるが、登録文化財の対象とならないのか。
B委員	豊中市では、野球場を登録したというのを聞いたことがある。

審 議 経 過

NO.3

A委員	多田神社では、以前文化庁の調査官が来た際、庭園跡ではないかという指摘があった。
事務局	多田神社では、本殿・拝殿を囲む築地塀の外側は、江戸時代の塔頭の跡を検出したことがあるが、まだわからないことが多い。 また、多田神社の北方には小さな観音堂があり、多田院草創の地であるという伝承がある。多田神社文書にもみられる中世からの伝承である。
B委員	確認調査を行った方が良いのではないか。
委員長	他に何か報告はないか。
事務局	次年度は、川西市文化財資料館で、県立考古博物館と共催で「ふるさと発掘展」を開催する予定である。
B委員	栄根銅鐸の原品を借りてきてはどうか。最近は和歌山県でも銅鐸を借りた例がある。
事務局	美術梱包代の予算がないので、困難である。
委員長	頑張って、良い展示にしていきたい。 これで、委員会を終了する。